

別記様式第 2 号

平成 30 年 10 月 9 日

行政視察報告書	(会派の場合) 会派の名称				
	代表者氏名			⑩	
	(会派以外の場合) 議員氏名				
		伊東 圭介	議員	笠原 俊一	議員
			議員		議員
			議員		議員
			議員		議員
視 察 先	(1) 佐賀県嬉野市				
	(2) 長崎県時津町				
	(3) 長崎県大村市				
視察目的 (項目)	(1) 議会基本条例の検証について				
	(2) 大規模区画整理事業・カナリーホールの運営について				
	(3) 中学校給食センターについて				
【調査内容・概要】					
佐賀県嬉野市					
(1) 議会基本条例の検証について					
<p>7月3日、台風7号の影響もあり長崎空港行きの飛行機も欠航する可能性がある中、羽田空港まで行きました。羽田空港では、九州行きの飛行機が軒並み欠航の案内が出ており半ばあきらめておりましたが長崎空港行きの便だけが天候調査の表示になっており結局、状況により羽田に引き返す条件で定刻に羽田空港を飛び立ち、無事に長崎大村空港に到着することができました。</p> <p>嬉野市は、平成18年1月1日に嬉野町と塩田町が合併して誕生した市です。面積は、126㎏で人口は、26,800人で嬉野温泉を中心とした観光業が盛んな地域です。また、緑茶の生産量でも全国の24%を占める有数の生産地であり、市町村別では、日本一です。</p> <p>大雨が降る中、嬉野市役所塩田庁舎に到着しました。議員有志での視察にもかかわらず田中政司議長、山口忠孝議会活性化特別委員会委員長はじめ6名の議員にお出迎えをいただきました。また、冒頭に公務の忙しい中、村上市長にも歓迎の挨拶をいただきました。村上市長は、2018年2月に佐賀県史上最年少の35歳で市長に就任し、それまでは、佐賀新聞社の地域担当の新聞記者をしていたとのこと。</p>					



👉 市長・議長から歓迎のご挨拶

👉 大勢の議員に対応いただき感謝！

◎ 視察研修内容

議会基本条例の検証について

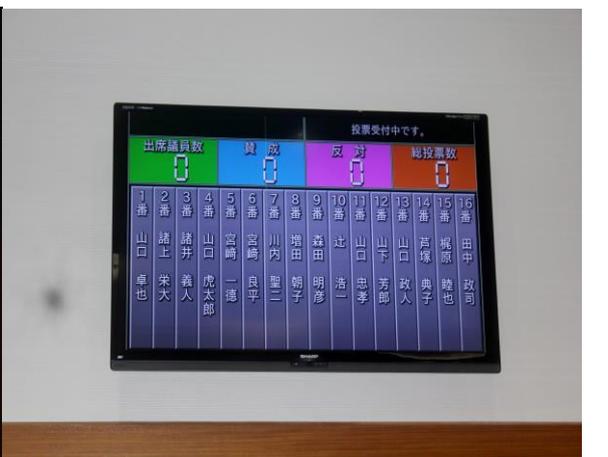
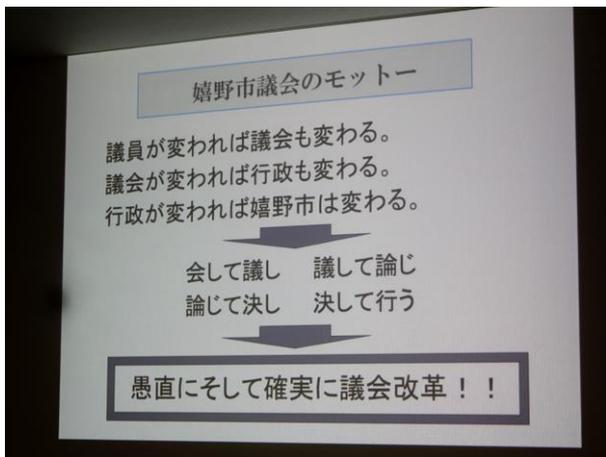
葉山町議会も議会基本条例を平成 21 年 10 月に制定してから 9 年が経過しましたがこれまで大きな見直しや検証を行ってこなかったことから議会運営委員会の課題として今後取り組んでいくことが確認されたため、先進自治体議会の嬉野市議会を視察研修することにしました。

嬉野市議会では、議会基本条例の見直し、検証については、埼玉県戸田市を参考に取り組みを進めたとのことでした。まずは、一般選挙後に議員全員で議会基本条例をはじめ議会関係条例の研修を実施したそうです。その後は、議会活性化特別委員会を中心に進めたとのことでした。また、議会改革状況審査会を立ち上げ、外部審査委員を 3～4 人構成メンバーに入れ組織しているそうです。外部委員の選任については、市民の中から元議員、元職員、行政委員等の議会に対しての知識やある程度専門的な意見やアドバイスができる方をお願いしているとのことでした。謝金は、一人一回 3,000 円だそうです。

検証、見直しの時期は、2 年に 1 回議会人事の交代の時に合わせて実施し、評価表を取りまとめホームページで市民に公開し、説明会も実施しているとのことでした。

今回の嬉野市議会での視察研修は、今後、葉山町議会における議会基本条例の検証に役立つ話しやアドバイスをいただくことができ、有意義な視察研修ができました。対応していただきました嬉野市議会関係者に感謝いたします。ありがとうございました。

記 伊東 圭介



長崎県時津町

(2) 大規模区画整理事業・カナリーホールの運営について

視察2日目、嬉野温泉から長崎のベットタウンとして発展してきた時津町に早めに到着。前回気が付かなかった奇岩、(鯖くさらかし岩)が町入り口で我々を出迎え、非常に強い日差しの中、4年前を思い出しつつ徒歩で食堂探し。

4年前の視察から待寺副議長と私は2度目の視察となったが、計画外の道路や護岸の改良整備も進んだことを目の当たりにできた。



👉 役場にて概要説明を受ける

👉 手前の瓦屋根の家が曳家で残った

2時から時津中央第2土地区画整備事業について4年前視察からの進捗状況を研修。この事業のもと、長崎大洪水の際の大きな被害を教訓に官民協力し、区画整備し災害に強いまちづくりを行っているもので、中央地区27.9ha(10年度完了)、その後12年11月14日に都市計画決定し、17年2月7日事業計画決定(変更5回)を行いました。総事業費132億3千万円(16年度から41年度)20.27haを整備する計画で、340戸(437棟)用地移転対象(315戸)(395棟)の大事業です。

4年前の26年に視察した当時は、進捗率15.1%で今回は46.4%となり、また、建物移転については、395棟中47.1%に当たる186棟の移転が29年度末に完了とのことでした。さて、前回視察中、丁度大きな屋敷の曳工作業中の地域も整備され、立派な家と庭が整然と夏の日差しの中にありました。前回は記述しましたが、先祖代々の土地の移転やお墓やお寺など当町に置き換えれば大変なことと感じ、時津町の事業に大いに感銘し、努力を続けられた皆様に対し尊敬の念を覚える事業でした。なお、4年前現地を案内していただいた林氏・蒔添氏が担当替えの中今回もお付き合い頂きました。



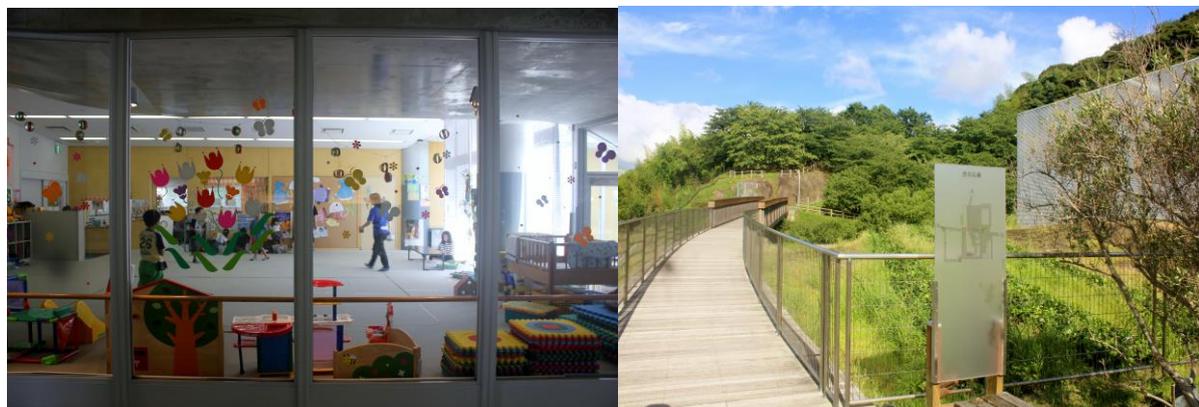
次に時津町が誇る、芸術文化拠点のひとつであるカナリーホール平成14年5月開館を視察しました。開口一番、佐藤館長から「かなり良いホール」です。葉山町と同じ久米設計（株）ですと自慢の言葉が印象的です。



👉 ステージも広くて低く設置

👉 椅子もとても素敵な造りです

建設総事業費 31億800万円 補助金0 起債30億円 一般財源1億800万円(四捨五入切り捨てあり) 敷地面積 125.626.14 m² 建設面積.4.823.47 m² 建築延べ面積 6.258.16 m² 鉄筋鉄骨コンクリート造り、地上2階 地下1階 リハーサル室、練習室、控室も充実。ホール客席770席(かなり高額のいす席) 駐車場269台可。児童館と民俗資料館が併設されレストランもある。建物は丘陵の斜面を利用して建設され、隣接の公園から吊り橋で屋上部分へのアプローチも可能。彩光もよく入りデザイン性にとんだ建築で屋上庭園と散策路が整備され、1階にある和風庭園の池周辺にくつろぎ空間もある。感想は、素晴らしいが維持管理がかなり大変なのではないかと感じた。



👉 児童館には大勢の学校帰りの児童が

👉 屋上の回廊

👉 入り口の庭園



予定外の視察として、議会事務局長の松尾祐二氏のはからいで、大村湾につきだした形の崎野自然公園を案内していただいた。本年6月にコテージタイプのおしゃれなレンタルハウスが3棟完成し、少人数での宿泊が可能でバーベキューや自然体験の出来る施設があり、釣りや遊泳は禁止とのことですが大変景色の良い素晴らしい施設でした。



👉 とても素敵なコテージが3棟

👉 コテージからの眺望も素敵です

<さばくさらかし岩（継石坊主）のいわれ>

なんともユーモラスなこの名前は、その昔、この岩の下を通りかかった魚売りが、今にも落ちんばかりの岩を怖がり、「落ちてから通ろう」と待ったものの、いつまでも落ちずに、結局持っていた鯖が腐ってしまったという民話に由来する。国道206号線から眺めることができ、今では「落ちない岩」として受験生に人気とのこと。

記 笠原 俊一

長崎県大村市

(3) 中学校給食センターについて

視察3日目は、長崎県大村市を訪問し、昨年葉山町に視察来庁された時に、平成30年8月より「大村市中学校給食センター」が稼働しますとのお話があり、建設最終場面がどのような状況にあるのかの目視と、中学校給食導入に向けた流れなどについてレクチャーを受けて参りました。

まずは市役所に表敬訪問し、大村市議会三浦議長と神近副議長と面会して、大村市の状況や給食センター建設に向けての議会側の対応など、多岐にわたり談話いたしました。三浦議長は仕事の関係で横須賀に勤務されていたこともあり、共通の知人のお話などができ、とても親近感を覚え、30分ほどの会合になりました。市役所から教育委員会職員の先導で、車で約20分の織物工場の跡地に建設中の給食センターに案内されて、すでに稼働している「大村市小学校給食センター」の会議室にて、小学校給食センター所長の畑田氏より、中学校給食センターの建設経緯やランニングコスト、特色ある給食づくりなど、事前にお知らせしていた質問項目に回答をいただく形で、1時間ほど説明と質疑応答を行いました。



👉 畑田所長より建設経緯等の講義

👉 隣では丁度給食調理中でした

まずは建設に至る経緯ですが、平成25年に長崎県内の諫早市・佐世保市・小値賀町が中学校給食を開始し、大村市のみが未実施となったところに、保護者へのアンケート調査を実施し約8割の保護者が早期の実施を望むと回答したところから、導入に向けての検討が始まりました。平成28年度には実施設計、平成29年9月から本体工事に着手し、平成30年6月末の完成予定で工事が進められました。訪問した時には、まさに内部機器等の完了検査を実施しているところで、大変お忙しい中対応いただき感謝しております。外構工事が未完成でしたが、8月の試験運転に向けて、順調に最後の仕上げに取り掛かっておられました。

大村市には6校の中学校があり、約3000人の生徒が学んでおります。長崎県内では人口が微増している数少ない自治体でもあり、今後の動向等も踏まえて、一日3300食が調理・提供可能な事業規模に設定しました。敷地面積は約6300㎡、鉄筋平屋建て総床面積は約2395㎡です。総事業費は20億7255万円、内訳は設計に2500万円・用地購入に1億3777万円・本体工事（厨房設備や外構工事も含む）17億3148万円です。用地買収や外構工事にはさほど予算をかけないで建設されており、働きやすさや厨房設備に予算を投入していると感じました。葉山町が建設予定していた予算はやはり高額なものとなっております。2800食の日生産量ならば大村市の予算額を超えることなく建設すべきでしょう。



財源の内訳は、国庫補助金（学校施設環境改善交付金）が2億286万円、一般財源が1億3229万円、残りの17億3740万円は起債により手当てしました。国の補助採択が大変厳しくなっているとのことのお話もいただきました。葉山でも建設する際にはもっと厳しくなることが予想されます。あらゆる手立てをはかり、最

小の費用で最高の給食を全児童・生徒に提供できる給食センター建設が求められております。防衛省の補助金を活用して各地で建設が行われ始めた防災・災害対策の機能を併せ持った「防災食育センター」の取り組みも大いに研究すべきと一同強く思いました。

さて建設中の中学校給食センターの真横には、平成25年に供用開始された「大村市小学校給食センター」があります。こちらは小学校15校と公立幼稚園3園に給食を提供しており、一日8000食の生産があります。小学校給食の調理・配送業務を現在行っている「株式会社東洋食品」に、平成31年7月までは中学校給食センターの調理・配送を随意契約にて委託するとのことです。平成31年8月からは3年ごとにプロポーザル方式で、事業委託先を決定していきます。尚、年間のランニングコストは委託費も含め約1億6000万円と想定されております。



👉 完成間近の中学校給食センター

👉 左側が稼働中の小学校給食センター

中学校6校中2校は、小学校給食センターを活用して、平成29年1月から（葦瀬中学校）と10月から（玖島中学校）完全給食が実施されております。市内では小規模・中規模校になります。給食費は一食280円での実施（小学校は一食225円）とのこと。美味しく安全で、そして少しでも負担が軽減されるよう努力を続けられております。お米は全て市内産を使用。さらにはオール大村産給食に取り組み、市内で収穫または加工された食材のみを使用するなど、まさに地元の生産者としっかりと食育を進めております。また児童が収穫した野菜も給食センターで調理し給食に提供するなど、特色ある取り組みにも感銘を受けました。

葉山では現在建設候補地を改めて探すところからになりますが、前述した防災機能を兼ね備えたり、地域の利用も可能になったり、何より地元産の食材をふんだんに取り入れた給食が、一日も早く中学校のみならず小学校の児童にも、これまで以上に楽しんでお腹いっぱい食べてもらえ、また作り手の皆様方の労働環境改善と衛生面での強化（HACCP導入）など、給食センター供用開始に向けて、様々な角度から、そして様々な手立てや関係団体から情報と協力を仰いで、葉山が未来に誇れる給食センター実現を目指したいと改めて心に刻む視察となりました。

記 待寺 真司

